

審査意見への対応を記載した書類（6月）

（目次）現代社会学部 現代社会学科

【設置の趣旨・目的等】

1. 身につける能力として、「学生一人ひとりが社会学の学びと社会調査やフィールド型アクティブ・ラーニング（以下、FAL）を通じて小さな発明、発見、開発（＝ユーザーイノベーション）を行い、これをシーズとして社会的な専門能力、実践能力を活かし、地域社会に貢献していく」と記載されていることや、科目区分において「FAL科目」を設けていることを踏まえると、「フィールド」における教育研究を重視しているように見受けられる。しかし、「フィールド」が、「大阪府及び近畿地区」といった地域としての概念を示しているのか、それらを内包した上でメディア空間等も含む社会領域としての概念を示しているのか、必ずしも明らかではないため、具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

（是正事項）・・・P3

2. カリキュラム・ポリシーに学修成果の評価の在り方等に関する具体的な記述が見受けられないことから、適切に改めること。

（改善事項）・・・P5

【名称等】

3. 本学部の教育研究上の目的は「社会学を基礎とした幅広い見識を有し、社会的想像力と実践力を身につけた社会の発展に貢献できる知的専門職業人を養成する」とされており、社会学の広範な概念を含み得ることから、学部・学科の名称を「社会学」ではなく「『現代』社会学」とすることの妥当性が必ずしも明らかではない。名称の妥当性について具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。その際、教育研究上の目的との整合性を含めた説明を行うほか、教育研究上の目的を修正する場合は、カリキュラムとの整合性等に留意し、他の関係する記載も適切に改めること。

（是正事項）・・・P6

【教育課程等】

4. 科目区分において、展開科目の中に「ソーシャルイノベーション科目群」「ライフデザイン科目群」「メディアコミュニケーション科目群」を設けるなど、各科目群において専門性を分化しているようにも見受けられるが、科目履修上の体系性・順序性等が明確でないため、学生が各科目群における専門性の向上を考慮した履修を行えるよう、学生に対する履修指導等を十分行うことが望ましい。

（改善事項）・・・P13

【入学者選抜】

5. 総合型選抜（アクティブラーニング型入試）においては、選考を「書類審査（出身学校調査書、志望理由書ほか）、グループワーク等」により行うとしているが、例えば、「グループワーク」については実際にどのような内容の試験を行うか明らかではなく、また、「等」で示される選抜方式についても具体的にどのような内容を示しているか明確ではないため、アドミッション・ポリシーに対応した能力の審査を行うものとなっているか判断できない。また、本学部では多様な入学者選抜を実施することとしているが、例えば、学力試験により合否を判定す

るとしている一般選抜や大学入学共通テスト利用入試において「●関心・意欲・態度」に関するアドミッション・ポリシーのAP3やAP4をどのように確認するのかなど、アドミッション・ポリシーで定める各項目が、それぞれの選抜形式において適切に確認できるものとなっているか疑義があるため、選抜区分ごとにアドミッション・ポリシーとの対応関係を具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。 (是正事項) P17

【教員組織】

6. フィールド型アクティブ・ラーニング科目であるFAL科目について、例えば「FAL演習Ⅰ」については専任教員が全員で分担して実施することについての記載があるのみであるが、シラバスを見てもこの授業科目の責任者や役割分担が不明であり、23名の教員が指導や評価について連携し、一定の質を確保して指導ができる体制となっているか疑義がある。FAL科目における使用教室、一度に受講する学生数、実習先、この授業科目の責任者、指導や評価の方針についての指導教員間の連携方法、教員一人あたりの担当学生数等の概要を明らかにしつつ、適切な体制となっているか具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(是正事項) P22

7. 専任教員の年齢構想が高齢に偏っていることから、教育研究の継続性の観点から、若手教員の採用計画など教員組織の将来構想を明確にすること。 (改善事項) P27

(是正事項) 現代社会学部 現代社会学科

1. 身につける能力として、「学生一人ひとりが社会学の学びと社会調査やフィールド型アクティブ・ラーニング（以下、FAL）を通じて小さな発明、発見、開発（＝ユーザーイノベーション）を行い、これをシーズとして社会的な専門能力、実践能力を活かし、地域社会に貢献していく」と記載されていることや、科目区分において「FAL 科目」を設けていることを踏まえると、「フィールド」における教育研究を重視しているように見受けられる。しかし、「フィールド」が、「大阪府及び近畿地区」といった地域としての概念を示しているのか、それらを内包した上でメディア空間等も含む社会領域としての概念を示しているのか、必ずしも明らかではないため、具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

「フィールド型アクティブ・ラーニング（以下、FAL）」における「フィールド」の概念について、以下において説明する。これに基づき、設置の趣旨等を記載した書類の該当箇所を是正する。

(FALにおける「フィールド」の概念)

FALにおける「フィールド」は、「大阪府及び近畿地区」といった行政区画または広域的空間領域ないし位置的概念ではなく、企業・地方公共団体・公益法人等と協働する活動実践の現場としての社会領域概念である。なお、現時点で50を超える諸団体に「フィールド」での協働の承諾を得ており、そこでの主な活動実践の内容は、まちづくり・地方活性化、「働き方」の再構築、地域産業の活性化、国際交流やダイバーシティの推進、高齢者・障害者・経済困難者等の支援、生きづらさを抱えた若者・子どもの支援、文化芸術活動・スポーツの振興、自然環境保全と環境教育、地域資源・文化資源の再発見、ヘルスプロモーションの促進、コミュニティの再構築、住民参加による政策立案、メディアでの情報発信等である。学生はこうした「フィールド」での活動実践において、各種団体・他者と協働しながら課題の発見・解決を実体験し、現代社会が抱える諸課題の解決に貢献するための専門能力、実践能力を高めることができる。また「フィールド」での活動実践は、リアルな対面関係の協働を主とするが、オンラインを含む多様なメディア空間も必要に応じて効果的に活用する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (11～12 ページ)

新	旧
<p>2) FAL 科目を中心としたアクティブ・ラーニングによる主体的かつ実践的な学び</p> <p>1 年次から 4 年次まで配置する専門科目「FAL 科目」により、企業、地方公共団体、公益法人等と協働しながら課題解決型の授業を展開し、地域社会の現場で活躍し、牽引役となる人材を養成する。</p> <p><u>FALにおける「フィールド」</u>とは、<u>企業・地方公共団体・公益法人等と協働する活動実践の現場</u>である。なお、現時点で50を超える諸団体に「フィールド」での協働の承諾を得ており、</p>	<p>2) FAL 科目を中心としたアクティブ・ラーニングによる主体的かつ実践的な学び</p> <p>1 年次から 4 年次まで配置する専門科目「FAL 科目」により、企業、地方公共団体、公益法人等と協働しながら課題解決型の授業を展開し、地域社会の現場で活躍し、牽引役となる人材を養成する。(中略)</p> <p>(新規)</p>

<p>そこでの主な活動実践の内容は、まちづくり・<u>地方活性化、「働き方」の再構築、地域産業の活性化、国際交流やダイバーシティの推進、高齢者・障害者・経済困難者等の支援、生きづらさを抱えた若者・子どもの支援、文化芸術活動・スポーツの振興、自然環境保全と環境教育、地域資源・文化資源の再発見、ヘルスプロモーションの促進、コミュニティの再構築、住民参加による政策立案、メディアでの情報発信等である。学生はこうした「フィールド」での活動実践において、各種団体・他者と協働しながら課題の発見・解決を実体験し、現代社会が抱える諸課題の解決に貢献するための専門能力、実践能力を高めることができる。また「フィールド」での活動実践は、リアルな対面関係の協働を主とするが、オンラインを含む多様なメディア空間も必要に応じて効果的に活用する。</u></p> <p>(中略)</p> <p>FAL 科目は、<u>演習科目の一部において、企業、地方公共団体、公益法人等と協働する現場としての学内外のフィールドを活用し、多様な活動実践にグループで取り組む。</u>(以下、略)</p>	<p>FAL 科目は、<u>演習科目の一部において、学内外のフィールドを活用し、企業、地方公共団体、公益法人等と協働しながら、インタビュー、アンケート、イベントの企画立案等の実践にグループで取り組む。</u>(以下、略)</p>
--	--

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (19 ページ)

新	旧
<p>[3] FAL 科目 (省略)</p> <p>FAL 科目は、<u>企業、地方公共団体、公益法人等との協働の活動実践の現場としてのフィールドにおいて、現代社会が抱える諸課題やその解決に関する実践的な学びに重点を置く本学部の中核的な科目であり、体験的な学修を通じて、実践的な能力を身につける。</u></p>	<p>[3] FAL 科目 (省略)</p> <p>FAL 科目は、<u>地域社会（行政機関や企業等）での社会学の学びに重点を置く本学部の中核的な科目であり、体験的な社会学の学修を通じて、実践的な能力を身につける。</u></p>

(改善事項) 現代社会学部 現代社会学科

2. カリキュラム・ポリシーに学修成果の評価の在り方等に関する具体的な記述が見受けられないことから、適切に改めること。

(対応)

審査意見を受け、カリキュラム・ポリシーに以下の項目を追加し、学修成果の評価方法を明示した。

学修成果については以下の方法等で評価する。

(学修成果の評価方法)

授業科目の評価にあたっては、シラバスで学生に明示する各科目の到達目標の達成度と評価方法、評価基準に基づき、客観的かつ厳格に行う。

(教育手法)

各授業においては、自ら能動的に学修し探究する態度を身につけるため、アクティブ・ラーニングの教育手法を多く取り入れる。様々な活動実践を学びの場とする「FAL科目」では、フィールド型アクティブ・ラーニングを実施する。

(教育の質保証)

授業評価等による教育課程の自己点検・評価を不断に行い、その改善に努めることで教育の内部質保証を行う。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (16 ページ、資料 1)

新		旧	
現代社会学部のカリキュラム・ポリシー		現代社会学部のカリキュラム・ポリシー	
(省略)		(省略)	
●技能・表現	[CP8] (省略)	●技能・表現	[CP8] (省略)
学修成果については以下の方法等で評価する。		(新規)	
(学修成果の評価方法)			
授業科目の評価にあたっては、シラバスで学生に明示する各科目の到達目標の達成度と評価方法、評価基準に基づき、客観的かつ厳格に行う。			
(教育手法)			
各授業においては、自ら能動的に学修し探究する態度を身につけるため、アクティブ・ラーニングの教育手法を多く取り入れる。様々な活動実践を学びの場とする「FAL科目」では、フィールド型アクティブ・ラーニングを実施する。			
(教育の質保証)			
授業評価等による教育課程の自己点検・評価を不断に行い、その改善に努めることで教育の内部質保証を行う。			

(是正事項) 現代社会学部 現代社会学科

3. 本学部の教育研究上の目的は「社会学を基礎とした幅広い見識を有し、社会学的想像力と実践力を身につけた社会の発展に貢献できる知的専門職業人を養成する」とされており、社会学の広範な概念を含み得ることから、学部・学科の名称を「社会学」ではなく「『現代』社会学」とすることの妥当性が必ずしも明らかではない。名称の妥当性について具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。その際、教育研究上の目的との整合性を含めた説明を行うほか、教育研究上の目的を修正する場合は、カリキュラムとの整合性等に留意し、他の関係する記載も適切に改めること。

(対応)

審査意見を踏まえ、名称を「現代社会学部 現代社会学科」とする妥当性・整合性について、以下において説明する。教育研究上の目的については、「現代社会学」とする学部・学科名称及びディプロマ・ポリシーとの整合性を踏まえ、「社会学を基礎とした幅広い見識を有し、社会学的想像力と実践力を身につけた、現代社会が抱える諸課題の解決に貢献できる知的専門職業人を養成すること」と修正する。これに基づき、設置の趣旨等を記載した書類の他の関係する記載も適切に是正する。

(学部・学科名称について)

『大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準・社会学分野』でも指摘されおり、社会学はヨーロッパを中心とした「近代社会」への移行前後の大きな社会変動のうねりの中で成立した「変動期の学問」であり、しかも現代社会は「近代社会」への移行期に劣らぬ、しかし規模とスピードにおいてはそれを凌駕する大きな変動に見舞われている。また社会学の認識の先にはつねに現代社会の現場・問題があり、それゆえ社会学の知は単なる認識に終わらず、つねにその成果を社会に還元して実践や提言を試みるという特性をもつ。

そして現代社会は、気候変動をはじめとする地球環境危機、グローバルな格差と多元性の膨張、予測不能なリスクの生産と分配、近代国民国家の揺らぎと新たな公共圏・民主主義の模索、情報のグローバル化とデジタル監視社会化、近代家族の揺らぎ・個と類の新たな関係性の再構築、さらにAI・バイオテクノロジーなど先端科学技術によるポストヒューマンの可能性など、「近代化」や「近代社会」の単純な延長線上では解決が困難な固有の歴史的諸課題に直面している。

本学は、以上に述べた現代社会が直面している、現代に固有の諸課題の実践的解決に貢献できる人材の養成が社会的要請と考え、現代の諸課題に社会学の領域から強くコミットする学部として、現代社会学部の開設に至ったものである。

現代社会の諸課題に向かい合うためには、現在性・実践性に富む「変動期の学問」である社会学を、多様な関連領域の諸科学の学際的ネットワークの中核的な結節点として有効に機能させていく必要があり、その成果を社会に還元していくことが求められている。

以上の設置理由により、本学部では、社会学を基礎とした幅広い見識を有し、社会学的想像力と実践力を身につけた、現代社会が抱える諸課題の解決に貢献できる知的専門職業人を養成することを、教育研究上の目的とする。その養成人材像及び教育研究上の目的を明確にするため、学部・学科名称を「現代社会学部 現代社会学科」とする。

(新旧対照表) 基本計画書 (1 ページ)

学則 (3、113 ページ)

設置の趣旨等を記載した書類 (6、7、14、15、29、35 ページ、資料 1)

新	旧
<p><教育研究上 (新設学部等) の目的> 社会学を基礎とした幅広い見識を有し、社会的想像力と実践力を身につけた、<u>現代社会が抱える諸課題の解決</u>に貢献できる知的専門職業人を養成する</p>	<p><教育研究上 (新設学部等) の目的> 社会学を基礎とした幅広い見識を有し、社会的想像力と実践力を身につけた<u>社会の発展</u>に貢献できる知的専門職業人を養成する</p>

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (3~8 ページ、資料 1)

新	旧
<p>②社会学の学びと本大学の教育 社会学は、様々な学問領域に隣接しそれをつなげることのできる学問であり、<u>多様な諸科学を学際的に発展・結集させる基礎・結節点となり得る学問でもある</u>。文・理・医療系の 8 学部を擁する総合大学である本大学において、<u>社会学を基礎とした幅広い見識を有し、現代社会が抱える諸課題の解決に貢献できる知的職業人の養成を目的とする「現代社会学部」の設置は、本大学の各学部での多様な学問領域を現代社会の要請に沿って学際的に発展・結集させ、本大学が目指している「予測不可能な時代を生き抜く人材の養成」を中心的に牽引する学部</u>の設置という意義をもつ。</p> <p>(中略)</p> <p>(地域における必要性) (省略) 本学部では、<u>社会学を基礎とした幅広い知見の学びと研究を通じて、大阪府及び近畿地区の社会の現代的な諸課題を見出し、その課題解決や地域のあり方を考究していく</u>。</p> <p>(中略)</p> <p>(3) 養成する人材像と身につける能力 本学部の設置にあたり、養成する人材像を「<u>社会学を基礎とした幅広い見識を有し、社会的想像力と実践力を身につけた、現代社会が抱える諸課題の解決に貢献できる知的専門職業人</u>」とし、その具体的な能力を本学部のディプロマ・ポリシーとして設定している。</p>	<p>②社会学の学びと本大学の教育 社会学は、様々な学問領域に隣接しそれをつなげることのできる学問であり、<u>社会学を学ぶ「現代社会学部」は、現代的に発展・結集させる基礎・結節点となる学問でもある</u>。文・理・医療系の 8 学部を擁する総合大学である本大学において、<u>教育研究上における結節点となり学際的な取り組みを推進できる本学部を設置することは、本大学が目指している「予測不可能な時代を生き抜く人材の養成」を中心的に牽引する学部となり得ると考えている</u>。</p> <p>(中略)</p> <p>(地域における必要性) (省略) 本学部では、社会学の学びと研究を通じて、大阪府及び近畿地区の社会の課題を見出し、その課題解決や地域のあり方を考究していく。</p> <p>(中略)</p> <p>(3) 養成する人材像と身につける能力 本学部の設置にあたり、養成する人材像を「<u>社会学を基礎とした幅広い見識を有し、社会的想像力と実践力を身につけた社会の発展に貢献できる知的専門職業人を養成する</u>」とし、その具体的な能力を本学部のディプロマ・ポリシーとして設定している。</p>

<p>(中略)</p> <p>(身につける能力) (省略)</p> <p>本学部では、学生一人ひとりが<u>社会学を基礎とした学びと社会調査やフィールド型アクティブ・ラーニング</u> (以下、FAL) を通じて小さな発明、発見、開発 (=ユーザーイノベーション) を行い、これをシーズとして社会的な専門能力、実践能力を活かし、<u>現代社会が抱える諸課題の解決</u>に貢献していく。(中略)</p> <p>さらに本学部では、<u>現代社会</u>やそれが抱える固有の諸課題について、<u>多面的・実践的に理解する能力の涵養も重視する</u>。日本学術会議「<u>大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 社会学分野</u>」でも指摘されており、<u>現代社会</u>は「近代社会」への移行期に劣らぬ、しかし規模とスピードにおいてはそれを凌駕する大きな変動に見舞われている。気候変動をはじめとする地球環境危機、グローバルな格差と多元性の膨張、予測不能なリスクの生産と分配、近代国民国家の揺らぎと新たな公共圏・民主主義の模索、情報のグローバル化とデジタル監視社会化、近代家族の揺らぎ・個と類の新たな関係性の再構築、さらに AI・バイオテクノロジーなど先端科学技術によるポストヒューマンの可能性など、<u>現代社会</u>は「近代化」や「近代社会」の単純な延長線上では解決が困難な固有の歴史的諸課題に直面している。本学部は、こうした現代に固有の諸課題の実践的解決に貢献できる人材の育成が社会的要請と考え、<u>現代社会</u>の諸課題の理解と解決に社会学を多様な関連領域の諸科学の学際的ネットワークの中核的な結節点としてコミットする学部であるため、<u>現代社会</u>やそこでの諸課題についての多面的・実践的な理解・見識の涵養を特に重視する。</p> <p>(中略)</p> <p>(養成する人材像とカリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの相関)</p> <p>本学部の養成する人材像、身につける能力とカリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーとの関係は、【資料1】に示す通り本学部の養成する人材像である「社会学を基礎とした幅広い見識を有し、社会的想像力と実践力を身</p>	<p>(中略)</p> <p>(身につける能力) (省略)</p> <p>本学部では、学生一人ひとりが<u>社会学の学びと社会調査やフィールド型アクティブ・ラーニング</u> (以下、FAL) を通じて小さな発明、発見、開発 (=ユーザーイノベーション) を行い、これをシーズとして社会的な専門能力、実践能力を活かし、<u>地域社会</u>に貢献していく。(中略)</p> <p>(新規)</p> <p>(中略)</p> <p>(養成する人材像とカリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの相関)</p> <p>本学部の養成する人材像、身につける能力とカリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーとの関係は、【資料1】に示す通り本学部の養成する人材像である「社会学を基礎とした幅広い見識を有し、社会的想像力と実践力を身</p>
--	--

<p>につけた、<u>現代社会が抱える諸課題の解決</u>に貢献できる知的専門職業人」に基づき、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを構成している。そのうち、「社会学を基礎とした幅広い見識」は主に DP1 (CP1)、DP2 (CP2)、DP7 (CP7) と関連し、「社会学的想像力」は主に DP3 (CP3)、DP4 (CP4)、DP5 (CP5)、DP6 (CP6) に関連し、「実践力」は主に DP5 (CP5)、DP6 (CP6)、DP7 (CP7)、DP8 (CP8) に関連し、「<u>現代社会が抱える諸課題の解決</u>」は主に DP1 (CP1)、DP2 (CP2)、DP3 (CP3)、DP4 (CP4)、DP5 (CP5) と関連している。</p> <p>【資料1】養成する人材像とカリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの関連図</p> <p>(5) 組織として研究対象とする中心的な研究分野 (省略) <u>社会学を多様な関連領域の諸科学の学際的ネットワークの中核的な結節点として、現代社会が抱える諸課題とその解決について</u>研究を進める。周辺領域との結節点となり、多様な分野とつながる「<u>多能性</u>」をもって、<u>現代社会の諸課題とその解決に取り組むこと</u>が本学部の特長といえる。(以下、略)</p>	<p>につけた<u>社会の発展</u>に貢献できる知的専門職業人を<u>育成する</u>」に基づき、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを構成している。そのうち、「社会学を基礎とした幅広い見識」は主に DP1 (CP1)、DP2 (CP2)、DP7 (CP7) と関連し、「社会学的想像力」は主に DP3 (CP3)、DP4 (CP4)、DP5 (CP5)、DP6 (CP6) に関連し、「実践力」は主に DP5 (CP5)、DP6 (CP6)、DP7 (CP7)、DP8 (CP8) に関連している。 (新規)</p> <p>【資料1】養成する人材像とカリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの関連図</p> <p>(5) 組織として研究対象とする中心的な研究分野 (省略) 多様な関連領域の諸科学の学際的ネットワークの中核的な結節点として<u>社会学の</u>研究を進める。周辺領域との結節点となり、多様な分野とつながる「<u>多能性</u>」が本学部の特長といえる。(以下、略)</p>
--	---

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (10～13 ページ)

新	旧
<p>1) 多様かつ広範な<u>現代社会学</u>の学びと 3 つの科目群 (省略) 専門科目「展開科目」には、主に 3 年次から 4 年次に現代社会が抱える多様かつ広範な<u>諸課題とその解決</u>に関する知識と理解を以下の 3 つの科目群として体系化し、複眼的、多角的な<u>現代社会学</u>の学びを実現する。</p> <p>(中略)</p> <p>学生は、自らの関心や課題に基づき、先述の 3 つの科目群の<u>観点</u>・特性を踏まえて必要な科目を履修し、卒業研究につなげることで、4 年間の<u>現代社会学</u>の学びを具現化する。</p> <p>(中略)</p>	<p>1) 多様かつ広範な<u>社会学</u>の学びと 3 つの科目群 (省略) 専門科目「展開科目」には、主に 3 年次から 4 年次に多様かつ広範な<u>社会領域</u>に関する知識と理解を以下の 3 つの科目群として体系化し、複眼的、多角的な<u>社会学</u>の学びを実現する。</p> <p>(中略)</p> <p>学生は、自らの関心や課題に基づき、先述の 3 つの科目群の<u>視角</u>・特性を踏まえて必要な科目を履修し、卒業研究につなげることで、4 年間の<u>社会学</u>の学びを具現化する。</p> <p>(中略)</p>

3) 課題発見から提案、解決、開発へとつなげる現代社会学の学び (以下、略)	3) 課題発見から提案、解決、開発へとつなげる社会学の学び (以下、略)
---	---

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (15～21 ページ)

新	旧
現代社会学部のカリキュラム・ポリシー	現代社会学部のカリキュラム・ポリシー
<p>●知識・理解</p> <p>[CP1] 豊かな人間性を育み、グローバル化や価値観の多様化を理解するための幅広い教養を身につけるため、人文・社会・自然科学系などの教養科目を配当する。さらに、<u>現代社会が抱える諸課題</u>に向き合う上で必要となる基礎知識を身につけるために、「現代社会学入門」「基礎統計学」を配当する。</p> <p>[CP2] <u>現代社会が抱える諸課題</u>をマクロな社会構造の視点、ミクロな諸個人の生活の視点および 2 つの視点をつなぐコミュニケーション、メディア、表象等の視点での分析・考察に必要な専門知識を身につけるために、「社会構造変動史」「日常生活世界論」および展開科目を配当する。</p>	<p>●知識・理解</p> <p>[CP1] 豊かな人間性を育み、グローバル化や価値観の多様化を理解するための幅広い教養を身につけるため、人文・社会・自然科学系などの教養科目を配当する。さらに、<u>社会現象・社会問題</u>に向き合う上で必要となる基礎知識を身につけるために、「現代社会学入門」「基礎統計学」を配当する。</p> <p>[CP2] <u>社会現象・社会的諸課題</u>をマクロな社会構造の視点、ミクロな諸個人の生活の視点および 2 つの視点をつなぐコミュニケーション、メディア、表象等の視点での分析・考察に必要な専門知識を身につけるために、「社会構造変動史」「日常生活世界論」および展開科目を配当する。</p>
<p>●思考・判断</p> <p>[CP3] <u>現代社会が抱える諸課題</u>を多面的・多角的に分析・考察し、自ら課題を発見し、その解決に必要な方法を提案できる能力を身につけるために、「FAL 入門」「FAL 実践」「初年次ゼミ」および展開科目を配当する。</p> <p>[CP4] <u>現代社会が抱える諸課題</u>を多面的・多角的に分析・考察することで、柔軟な思考力と判断力に繋げるとともに、新しい発想で未来社会を構想することができる能力を身につけるために、「基礎演習</p>	<p>●思考・判断</p> <p>[CP3] <u>社会現象・社会的諸課題</u>を多面的・多角的に分析・考察し、自ら課題を発見し、その解決に必要な方法を提案できる能力を身につけるために、「FAL 入門」「FAL 実践」「初年次ゼミ」および展開科目を配当する。</p> <p>[CP4] <u>社会現象・社会的諸課題</u>を多面的・多角的に分析・考察することで、柔軟な思考力と判断力に繋げるとともに、新しい発想で未来社会を構想することができる能力を身につけるために、「基礎演習 I」</p>

	I」「専門演習 I・II」「卒業研究 I・II」および展開科目を配当する。		「専門演習 I・II」「卒業研究 I・II」および展開科目を配当する。
● 関心・意欲・態度	[CP5] 現代社会における様々な社会諸領域の現状と課題に関心を持ち、その解決に向けて主体的に取り組む姿勢を身につけるために、「現代社会の諸問題」「FAL 入門」「FAL 実践」「初年次ゼミ」を配当する。 [CP6] (省略)	● 関心・意欲・態度	[CP5] 地域社会をはじめ、様々な社会諸領域の現状と課題に関心を持ち、その解決に向けて主体的に取り組む姿勢を身につけるために、「現代社会の諸問題」「FAL 入門」「FAL 実践」「初年次ゼミ」を配当する。 [CP6] (省略)
● 技能・表現	[CP7] 現代社会が抱える諸課題の発見・解決のために必要な情報を、多様で適切なメディアや実態調査を通して収集し、分析するスキルを身につけるために、1年次から4年次にかけて社会調査士関連科目および「FAL 演習 I～IV」を段階的に配当する。 [CP8] (省略)	● 技能・表現	[CP7] 社会現象・社会的諸課題の発見・解決のために必要な情報を、多様で適切なメディアや実態調査を通して収集し、分析するスキルを身につけるために、1年次から4年次にかけて社会調査士関連科目および「FAL 演習 I～IV」を段階的に配当する。 [CP8] (省略)
(中略)		(中略)	
(2) 教育課程の編成の特色		(2) 教育課程の編成の特色	
1) 教育課程の編成		1) 教育課程の編成	
[1] 広範な現代社会学の学びと 3つの科目群		[1] 広範な社会学の学びと 3つの科目群	
(中略)		(中略)	
[ソーシャルイノベーション科目群]		[ソーシャルイノベーション科目群]	
ソーシャルイノベーション科目群は、マクロな社会構造・変動を理解し、主に方法的社会主義の観点から現代社会が抱える諸課題やその解決について分析・考察する科目群であり、併せて物事の全体を俯瞰する「鳥の目」からの学びである。(省略)		ソーシャルイノベーション科目群は、マクロな社会構造・変動を理解し、主に方法的社会主義の観点から社会現象・社会的課題を分析・考察する科目群であり、併せて物事の全体を俯瞰する「鳥の目」からの社会学の学びである。(省略)	
[ライフデザイン科目群]		[ライフデザイン科目群]	
ライフデザイン科目群は、諸個人の生活と密着した行為・社会意識を理解し、主に方法的個人主義の観点から現代社会が抱える諸課題やその解決について分析・考察する科目群であ		ライフデザイン科目群は、諸個人の生活と密着した行為・社会意識を理解し、主に方法的個人主義の観点から社会現象・社会的課題を分析・考察する科目群であり、細部の現実を見逃	

<p>り、細部の現実を見逃さない「虫の目」からの学びである。(省略)</p> <p>[メディアコミュニケーション科目群] メディアコミュニケーション科目群は、主にマクロな社会構造とミクロな諸個人の生活をつなぐコミュニケーション・メディア・表象等の観点から<u>現代社会が抱える諸課題やその解決について分析・考察する科目群</u>であり、多様な視点をつなぎ変化を生み出す「魚の目」からの学びである。(省略)</p> <p>(中略)</p> <p>[5] 演習・卒業研究 (省略)「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」は、<u>本学部の教育</u>において特に重要な位置を占める。学生が自らテーマを設定し、FAL・社会調査・講義・演習を通して学び身につけた<u>現代社会が抱える諸課題やその解決についてのもの</u>の見方や考え方を集大成する。(以下、略)</p>	<p>さない「虫の目」からの<u>社会学の</u>学びである。(省略)</p> <p>[メディアコミュニケーション科目群] メディアコミュニケーション科目群は、主にマクロな社会構造とミクロな諸個人の生活をつなぐコミュニケーション・メディア・表象等の観点から<u>社会現象・社会的課題</u>を分析・考察する科目群であり、多様な視点をつなぎ変化を生み出す「魚の目」からの<u>社会学の</u>学びである。(省略)</p> <p>(中略)</p> <p>[5] 演習・卒業研究 (省略)「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」は、<u>社会学教育</u>において特に重要な位置を占める。学生が自らテーマを設定し、FAL・社会調査・講義・演習を通して学び身につけた<u>社会的なもの</u>の見方や考え方を集大成する。(以下、略)</p>
--	---

(改善事項) 現代社会学部 現代社会学科

4. 科目区分において、展開科目の中に「ソーシャルイノベーション科目群」「ライフデザイン科目群」「メディアコミュニケーション科目群」を設けるなど、各科目群において専門性を分化しているようにも見受けられるが、科目履修上の体系性・順序性等が明確でないため、学生が各科目群における専門性の向上を考慮した履修を行えるよう、学生に対する履修指導等を十分行うことが望ましい。

(対応)

科目履修上の体系性・順序性、学生に対する履修指導等について、以下において説明する。これに基づき、設置の趣旨等を記載した書類の該当箇所を改善し、参考資料として「基礎・展開科目が対象とする社会領域」を新たに提出する。

(展開科目における科目群と履修指導について)

展開科目における科目群は、「学科」や「コース」のような分化した専門性・固有の社会領域ではなく、現代社会学を学ぶすべての学生が身につけるべき3つの基本的な観点、すなわち①マクロな社会構造・変動と方法的社会主義、②ミクロな生活の現場・生活世界と方法的個人主義、そして③両者をつなぐコミュニケーション・メディア・表象等といった観点の相違に基づく科目区分である。そこで、すべての学生に、3つの科目群からそれぞれ最低でも2単位以上を選択必修とする。

同時に展開科目は、学生各自が培った関心・問題意識に基づくPBL (Problem/Project based Learning) の専門的な学修科目でもある。そこで各自の関心・問題意識に応じた自由選択の幅を最大限確保する。

これを踏まえ、学生の専門性の向上を考慮した履修を行えるよう、本学部は以下の対応を行う。

(1) 「基礎・展開科目が対象とする社会領域」(別添【資料2】)の活用。

各選択科目が対象とする社会領域、及び展開科目群の観点を明示した「基礎・展開科目が対象とする社会領域」をすべての学生に配付し、学部における学びや科目履修に活用する。

ここでの社会領域の区分は、『大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準・社会学分野』の「社会を構成する諸領域」に概ね準拠している。

各選択科目が対象とする「社会領域」は、シラバスに記載した授業内容のキーワードを根拠としている。

これにより、学生は自ら関心・問題意識をもつ社会領域及び観点に関連する授業科目を、基礎科目及び3つの科目群の展開科目から適切に選択し、当該の社会領域に関する専門性を、多角的・複眼的な観点をもって向上させることができる。

なお各選択科目の順序性は、「基礎・展開科目が対象とする社会領域」及び「履修モデル」で明示する。本資料「基礎・展開科目が対象とする社会領域」は、設置の趣旨等を記載した書類の【資料4-1】として添付する。

(2) 学生の主体的な関心・問題意識を涵養し、適切な科目履修を保証する指導。

本学部の授業科目ではアクティブ・ラーニングを積極的に導入し、入学当初から学生各自の主体的な関心・問題意識を段階的に涵養する。特に「初年次ゼミ(1年次前期)」「初年次演習(1年次後期)」「基礎演習I(2年次前期)」「基礎演習II(2年次後期)」において、学生各自

の関心・問題意識を明確にするためのプレゼンテーション、ディスカッション、自らの知識や価値観の省察の機会を十分に確保し、併せて演習担当教員が学生各自の関心・問題意識、学習歴にふさわしい科目選択の履修指導をきめ細かく実施する。各演習での履修指導においては、その時期・内容・方法・配付書類等を統一し、前記（１）の「基礎・展開科目が対象とする社会領域」を活用するなど、演習担当教員毎によって差異が出ないように体制を整備する。

各年度当初に実施する履修ガイダンスにおいても、展開科目が学生各自の関心・問題意識に基づく PBL の専門的な学修科目であること、及び各科目群の区分の趣旨・目的を毎年度、周知徹底する。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（13 ページ）

新	旧
<p>3) 課題発見から提案、解決、開発へとつなげる現代社会学の学び (省略) 学生は本学部における主体的、能動的な学びを通じて、社会における自らの役割や生活、<u>社会的な関心・問題意識</u>、さらにその延長線上にある社会の組織や構造、価値を改良、改善、開発、発明できる能力、いわば社会におけるユーザーイノベーションの能力を身につけることが期待できる。(以下、略)</p>	<p>3) 課題発見から提案、解決、開発へとつなげる社会学の学び (省略) 学生は本学部における主体的、能動的な学びを通じて、社会における自らの役割や生活、さらにその延長線上にある社会の組織や構造、価値を改良、改善、開発、発明できる能力、いわば社会におけるユーザーイノベーションの能力を身につけることが期待できる。(以下、略)</p>

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（17 ページ）

新	旧
<p>[3] 学生の問題意識、主体性を重視したカリキュラム <u>適切な履修指導のもと、学生が自身の問題意識、関心に基づき4年間の学びをデザインし、現代社会についての専門的知見を主体的に修得できる自由度の高いカリキュラム</u></p> <p>(中略)</p> <p>[5] 4年間を通したゼミ科目 4年間を一貫したゼミ科目により、基礎的な学修スキルの修得から、<u>問題意識・関心の涵養</u>、さらに専門的知見の修得まで段階を踏んだ少人数教育</p> <p>(省略) 本学部では、コースや専攻は設定せず、履修条件や卒業要件の範囲において、<u>適切な履修指導のもと</u>、学生の主体的な関心・問題意識に沿って自由度を最大限に尊重したカリキュラムとしている。</p> <p>(中略)</p>	<p>[3] 学生の問題意識、主体性を重視したカリキュラム 学生が自身の問題意識、関心に基づき4年間の学びをデザインし、<u>社会を変えていく力を修得できる自由度の高いカリキュラム</u></p> <p>(中略)</p> <p>[5] 4年間を通したゼミ科目 4年間を一貫したゼミ科目により、基礎的な学修スキルの修得から<u>専門領域</u>まで段階を踏んだ少人数教育</p> <p>(省略) 本学部では、コースや専攻は設定せず、履修条件や卒業要件の範囲において、学生の主体的な関心・問題意識に沿って自由度を最大限に尊重したカリキュラムとしている。</p> <p>(中略)</p>

<p>[4] 展開科目 (省略) 展開科目における科目群は、現代社会学を学ぶすべての学生が身につけるべき 3 つの基本的な観点に基づく科目区分である。いかなる現代的諸課題も、単一の観点ではなく、複眼的・多角的な観点から分析・考察することが重要である。そこで、すべての学生に 3 つの科目群からそれぞれ最低でも 2 単位以上を選択必修とする。3 つの科目群は領域・方法の「蛸壺」ではなく、相互に噛み合って分析・考察を深める「歯車」である。 同時に展開科目は、1 年次・2 年次での学びを通して学生各自が培った関心・問題意識に基づく PBL (Problem/Project based Learning) の専門的な学修科目でもある。そこで各自の関心・問題意識に応じた自由選択の幅を最大限確保する。</p> <p>(中略)</p> <p>3 つの科目群の観点の相違、及び各授業科目が対象とする社会領域については、【資料 4-1】で総括的に示し、これを実際の履修指導において活用する。</p> <p>【資料 4-1】基礎・展開科目が対象とする社会領域</p> <p>[5] 演習・卒業研究 (省略) 1 年次から 4 年次までの一貫した演習・卒業研究の履修により、大学での学修や研究に必要な基本的な知識やスキルから、現代社会が抱える諸課題やその解決に関する関心・問題意識の段階的な明確化、4 年次の卒業研究、卒業論文の完成に必要な能力までを身につける。(以下、略)</p>	<p>[4] 展開科目 (省略) 展開科目は、1 年次・2 年次での学びを通して学生各自が培った関心・問題意識に基づく PBL のための学修科目である。そこで学生の関心・問題意識に応じた自由選択の幅を最大限確保する。ただし、いかなる現代的諸課題も、単一の観点ではなく、複眼的・多角的に分析・考察することが重要である。そこで後述の 3 つの科目群から、それぞれ 1 科目以上を選択する。3 つの科目群は領域・方法の「蛸壺」ではなく、相互に噛み合って分析・考察を深める「歯車」である。</p> <p>(中略)</p> <p>(新規)</p> <p>(新規)</p> <p>[5] 演習・卒業研究 (省略) 1 年次から 4 年次までの一貫した演習・卒業研究の履修により、大学での学修や研究に必要な基本的な知識やスキルから、4 年次の卒業研究、卒業論文の完成に必要な能力までを身につける。(以下、略)</p>
---	---

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (22~23 ページ)

新	旧
<p>4) 履修指導方法 (省略) また、授業の目的や内容の進め方、成績評価基準等はシラバスに明記する。本学部の授業科目では、アクティブ・ラーニングを積極的に導入し、入学当初から学生各自の主体的な関心・問題意識を段階的に涵養する。特に「初</p>	<p>4) 履修指導方法 (省略) また、授業の目的や内容の進め方、成績評価基準等はシラバスに明記し、学生自らの学習歴や学修意欲に合致した授業科目を選択受講できるよう履修指導体制を整備する。</p>

<p>年次ゼミ（1年次前期）」「初年次演習（1年次後期）」「基礎演習Ⅰ（2年次前期）」「基礎演習Ⅱ（2年次後期）」において、学生各自の関心・問題意識を明確にするためのプレゼンテーション、ディスカッション、自らの知識や価値観の省察の機会を十分に確保し、併せて演習担当教員が学生各自の関心・問題意識、学習歴にふさわしい科目選択の履修指導をきめ細かく実施する。各演習での履修指導においては、その時期・内容・方法・配付書類等を統一し、【資料4-1】を活用するなど、演習担当教員毎によって差異が出ないよう体制を整備する。</p>	
<p>【資料4-1】基礎・展開科目が対象とする社会領域</p>	<p>（新規）</p>
<p>（中略）</p>	<p>（中略）</p>
<p>（3）履修モデル （省略）計6種類の想定される進路に応じた履修モデル【資料4-2】を設定した。それぞれの履修モデルにおける履修科目の目安並びに進路イメージは【資料4-2】【資料5】に示す通り。</p>	<p>（3）履修モデル （省略）計6種類の想定される進路に応じた履修モデル【資料4】を設定した。それぞれの履修モデルにおける履修科目の目安並びに進路イメージは【資料4】【資料5】に示す通り。</p>
<p>【資料4-2】想定される進路に応じた履修モデル</p>	<p>【資料4】想定される進路に応じた履修モデル</p>

(是正事項) 現代社会学部 現代社会学科

5. 総合型選抜（アクティブラーニング型入試）においては、選考を「書類審査（出身学校調査書、志望理由書ほか）、グループワーク等」により行うとしているが、例えば、「グループワーク」については実際にどのような内容の試験を行うか明らかではなく、また、「等」で示される選抜方式についても具体的にどのような内容を示しているか明確ではないため、アドミッション・ポリシーに対応した能力の審査を行うものとなっているか判断できない。また、本学部では多様な入学者選抜を実施することとしているが、例えば、学力試験により合否を判定するとしている一般選抜や大学入学共通テスト利用入試において「● 関心・意欲・態度」に関するアドミッション・ポリシーの AP3 や AP4 をどのように確認するのかなど、アドミッション・ポリシーで定める各項目が、それぞれの選抜形式において適切に確認できるものとなっているか疑義があるため、選抜区分ごとにアドミッション・ポリシーとの対応関係を具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

ご指摘の点に対し、総合型選抜（アクティブラーニング型入試）の選考について、内容の詳細を明記した。また、選抜区分ごとのアドミッション・ポリシーとの対応関係について、評価項目と方法について新たに追記した。

(参考) 現代社会学部のアドミッション・ポリシー

●知識・理解	[AP1] 現代社会学部で学ぶ諸科目の前提となる、「国語」、「英語」、「地理歴史」、「公民」、「数学」など、高等学校の教育課程を幅広く修得し、基礎的素養を有している。
●思考・判断	[AP2] 色々な情報を組み合わせて自らの考えをまとめ、適切に判断することができる。
●関心・意欲・態度	[AP3] 身近な社会現象に関心を持っている。 [AP4] フィールドワークやボランティア活動に積極的に参加する意欲を有している。 [AP5] 異なる考えや価値観を受入れられる態度を有している。
●技能・表現	[AP6] 対話する力、文章を読む力、文章を書く力を身につけている。 [AP7] スポーツ・文化活動などの経験を通じて特定の分野において優れた技能を有している。

①総合型選抜（アクティブラーニング型入試）

書類審査と個人ワーク、グループワークにより、入学後も特段の成長が期待できるかどうかを判定する。書類審査では、志望理由書（入学希望理由、入学後に学びたい内容・学修計画、大学卒業後を見据えた目標）及び出身学校調査書（またはこれに代わるもの）の提出を求め評価する。個人ワークでは、現代社会にかかわる課題を提示したのち、アクションプラン（課題に対して大学生が取り組めること、具体的なアクションプラン及び期待される成果）の作成及びその内容についてのプレゼンテーション、質疑応答を行う。ここでは、提示された課題の理解力、実現可能なアクションプランの提案力、プレゼンテーションにおける表現力及び対応力を主たる評価の観点として設定する。グループワークでは、各自が作成したアクションプランを持ち寄り、対話を通じてグループとしてのアクションプランを作成する。ここでは、自身の意見を的確に他者に伝える発信力、他者の意見を理解しようとする傾聴力、様々な意見をもつ他者との対話力、目標達成に向けて他者とともに取

り組む協働力を主たる評価の観点として設定する。

なお、本選考において、[AP1]～[AP7]のすべてを書類審査、個人ワーク、グループワークのすべての審査によってそれぞれ確認する。

②総合型選抜（専門学科・総合学科出身者入試、課外活動優秀者入試）

書類審査（出身学校調査書、志望理由書）、適性検査、面接により、本大学に入学するに相応しい基礎的能力を有するかを判定する。

なお、本選考において、[AP1]は書類審査、適性検査、[AP2][AP3]は適性検査、面接、[AP4]は書類審査、面接、[AP5]は面接、[AP6]は書類審査、適性検査、面接、[AP7]は書類審査によってそれぞれ確認する。

③学校推薦型選抜（指定校推薦、内部推薦）

書類審査（出身学校調査書、志望理由書）、口頭試問により、入学後も特段の成長が期待できるかどうかを判定する。

なお、本選考において、[AP1][AP7]は書類審査、[AP2][AP5]は口頭試問、[AP3][AP4][AP6]は書類審査、口頭試問によってそれぞれ確認する。

④学校推薦型選抜（公募制推薦入試）

書類審査（出身学校調査書、学校長推薦書）、適性検査、面接により、本大学に入学するに相応しい基礎的能力を有するかを判定する。

なお、本選考において、[AP1]は書類審査、適性検査、[AP2][AP3]は適性検査、面接、[AP4]は書類審査、面接、[AP5]は面接、[AP6]は書類審査、適性検査、面接、[AP7]は書類審査によってそれぞれ確認する。

⑤一般選抜

学力試験により合否を判定する。出題教科、科目については、本学部の特性を考慮して決定する。

なお、本選考において、[AP1][AP2]は学力試験、[AP3][AP6]は出身学校調査書、学力試験、[AP4][AP5][AP7]は出身学校調査書によってそれぞれ確認する。

⑥大学入学共通テスト利用入試

大学入学共通テストの得点を本大学の配点に換算し合否を判定する。利用教科、科目については、本学部の特性を考慮して決定する。

なお、本選考において、[AP1][AP2]は大学入学共通テストの得点、[AP3][AP6]は出身学校調査書、大学入学共通テストの得点、[AP4][AP5][AP7]は出身学校調査書によってそれぞれ確認する。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（30～34ページ）

新	旧
①総合型選抜（アクティブラーニング型入試） 書類審査（出身学校調査書、志望理由書ほか）	①総合型選抜（アクティブラーニング型入試） 書類審査（出身学校調査書、志望理由書ほか）

<p>と個人ワーク、グループワークにより、入学後も特段の成長が期待できるかどうかを判定する。書類審査では、<u>志望理由書（入学希望理由、入学後に学びたい内容・学修計画、大学卒業後を見据えた目標）及び出身学校調査書（またはこれに代わるもの）の提出を求め評価する。個人ワークでは、現代社会にかかわる課題を提示したのち、アクションプラン（課題に対して大学生が取り組めること、具体的なアクションプラン及び期待される成果）の作成及びその内容についてのプレゼンテーション、質疑応答を行う。ここでは、提示された課題の理解力、実現可能なアクションプランの提案力、プレゼンテーションにおける表現力及び対応力を主たる評価の観点として設定する。グループワークでは、各自が作成したアクションプランを持ち寄り、対話を通じてグループとしてのアクションプランを作成する。ここでは、自身の意見を的確に他者に伝える発信力、他者の意見を理解しようとする傾聴力、様々な意見をもつ他者との対話力、目標達成に向けて他者とともに取り組む協働力を主たる評価の観点として設定する。</u></p> <p><u>なお、本選考において、[AP1]～[AP7]のすべてを書類審査、個人ワーク、グループワークのすべての審査によってそれぞれ確認する。</u></p> <p>出願資格は、次の a～c に該当する者とする。 (省略)</p>	<p>か)、グループワーク等により、入学後も特段の成長が期待できるかどうかを判定する。 (新規)</p> <p>出願資格は、次の a～c に該当する者とする。 (省略)</p>
<p>②総合型選抜（専門学科・総合学科出身者入試、課外活動優秀者入試）</p> <p>書類審査（出身学校調査書、志望理由書）、適性検査、面接により、本大学に入学するに相応しい基礎的能力を有するかを判定する。</p> <p><u>なお、本選考において、[AP1]は書類審査、適性検査、[AP2][AP3]は適性検査、面接、[AP4]は書類審査、面接、[AP5]は面接、[AP6]は書類審査、適性検査、面接、[AP7]は書類審査によってそれぞれ確認する。</u></p> <p>出願資格は、次に該当し、学業成績・人物ともに良好な者とする。(省略)</p>	<p>②総合型選抜（専門学科・総合学科出身者入試、課外活動優秀者入試）</p> <p>書類審査（出身学校調査書、志望理由書ほか）、適性検査、面接等により、本大学に入学するに相応しい基礎的能力を有するかを判定する。 (新規)</p> <p>出願資格は、次に該当し、学業成績・人物ともに良好な者とする。(省略)</p>
<p>③学校推薦型選抜（指定校推薦、内部推薦）</p> <p>書類審査（出身学校調査書、志望理由書）、口頭試問により、入学後も特段の成長が期待できるかどうかを判定する。</p> <p><u>なお、本選考において、[AP1][AP7]は書類審査、[AP2][AP5]は口頭試問、[AP3][AP4][AP6]は書類審査、口頭試問によって</u></p>	<p>③学校推薦型選抜（指定校推薦、内部推薦）</p> <p>書類審査（出身学校調査書、志望理由書ほか）、口頭試問により、入学後も特段の成長が期待できるかどうかを判定する。 (新規)</p>

<p>それぞれ確認する。</p> <p>出願資格は、次の a・b のいずれかに加えて、c に該当し、出身学校長が推薦した者とする。(省略)</p> <p>④学校推薦型選抜（公募制推薦入試） 書類審査(出身学校調査書、学校長推薦書)、適性検査、面接により、本大学に入学するに相応しい基礎的能力を有するかを判定する。 なお、本選考において、<u>[AP1] は書類審査、適性検査、[AP2] [AP3] は適性検査、面接、[AP4] は書類審査、面接、[AP5] は面接、[AP6] は書類審査、適性検査、面接、[AP7] は書類審査によってそれぞれ確認する。</u></p> <p>出願資格は、次の a～d のいずれかに該当し、学業成績・人物ともに良好で、出身学校長が推薦した者とする。(省略)</p> <p>⑤一般選抜 学力試験により合否を判定する。出題教科、科目については、本学部の特性を考慮して決定する。 なお、本選考において、<u>[AP1] [AP2] は学力試験、[AP3] [AP6] は出身学校調査書、学力試験、[AP4] [AP5] [AP7] は出身学校調査書によってそれぞれ確認する。</u></p> <p>出願資格は、次の a～d のいずれかに該当する者とする。(省略)</p> <p>⑥大学入学共通テスト利用入試 大学入学共通テストの得点を本大学の配点に換算し合否を判定する。利用教科、科目については、本学部の特性を考慮して決定する。 なお、本選考において、<u>[AP1] [AP2] は大学入学共通テストの得点、[AP3] [AP6] は出身学校調査書、大学入学共通テストの得点、[AP4] [AP5] [AP7] は出身学校調査書によってそれぞれ確認する。</u></p> <p>出願資格は、次の a～d のいずれかに該当する者とする。(省略)</p> <p>(中略)</p> <p>4) 入学者選抜の方法等 本学部における先述の入試種別の「募集人数」「試験科目」等は以下の通り設定している。</p> <p>現代社会学部の入試種別の募集人数、試験科目</p>	<p>出願資格は、次の a・b のいずれかに加えて、c に該当し、出身学校長が推薦した者とする。(省略)</p> <p>④学校推薦型選抜（公募制推薦入試） 出身学校調査書、学校長推薦書、適性検査等により、本大学に入学するに相応しい基礎的能力を有するかを判定する。 (新規)</p> <p>出願資格は、次の a～d のいずれかに該当し、学業成績・人物ともに良好で、出身学校長が推薦した者とする。(省略)</p> <p>⑤一般選抜 学力試験により合否を判定する。出題教科、科目については、本学部の特性を考慮して決定する。 (新規)</p> <p>出願資格は、次の a～d のいずれかに該当する者とする。(省略)</p> <p>⑥大学入学共通テスト利用入試 大学入学共通テストの得点を本大学の配点に換算し合否を判定する。利用教科、科目については、本学部の特性を考慮して決定する。 (新規)</p> <p>出願資格は、次の a～d のいずれかに該当する者とする。(省略)</p> <p>(中略)</p> <p>4) 入学者選抜の方法等 本学部における先述の入試種別の「募集人数」「試験科目」等は以下の通り設定している。</p> <p>現代社会学部の入試種別の募集人数、試験科目</p>
--	--

等一覧			等一覧		
入試種別	募集 人数	試験科目 (利用教科)	入試種別	募集 人数	試験科目 (利用教科)
①総合型選抜 (アクティブ ラーニング型 入試入試)	25人	個人ワーク、 <u>グ</u> ループワーク	①総合型選抜 (アクティブ ラーニング型 入試入試)	25人	グループワーク
(省略)			(省略)		

6. フィールド型アクティブ・ラーニング科目である FAL 科目について、例えば「FAL 演習 I」については専任教員が全員で分担して実施することについての記載があるのみであるが、シラバスを見てもこの授業科目の責任者や役割分担が不明であり、23名の教員が指導や評価について連携し、一定の質を確保して指導ができる体制となっているか疑義がある。FAL 科目における使用教室、一度に受講する学生数、実習先、この授業科目の責任者、指導や評価の方針についての指導教員間の連携方法、教員一人あたりの担当学生数等の概要を明らかにしつつ、適切な体制となっているか具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

ご指摘の点に対し、フィールド型アクティブ・ラーニング科目 (FAL 科目) について、実施概要及び運営体制を追記した。

FAL 科目の実施概要及び運営体制は、以下のとおりである。

FAL 科目の運営においては、FAL 運営委員会 (仮称) を設置し、「FAL 演習 I～IV」の統括責任者及び各プロジェクトの担当教員を選出・配置し、担当教員間の連携、学生に対する指導及び連携先との協議、評価にかかる方針・基準を明確化することにより、指導体制を確保する。

1 年次前期に開講する「FAL 入門」は、FAL の入門科目として、地域や企業など、様々なフィールドの現状と課題、またフィールドにおける活動に取り組むにあたっての心構えと具体的な手法を実践的に学ぶ。本科目は必修科目であるため、250 人の履修生が見込まれ、5 人の専任教員が分担して授業を運営する。

1 年次後期に開講する「FAL 実践」は、FAL の実践科目として、様々な活動実践の現場で活躍する主体との交流を通じた「提案力」及び「修正力」の獲得を目指す。本科目は選択科目であり、100 人程度の履修が見込まれる。本科目は、企業、地方公共団体、公益法人等と連携して開講するもので、社会が抱える課題に関する話題提供や、学生が提案するアクションプランに対するフィードバックなどを連携先が担当し、科目を担当する 5 人の専任教員は、授業の円滑な運営を監督するとともに、グループワークのファシリテーターとして、学生の主体的な学修を支援する。

なお、「FAL 入門」及び「FAL 実践」は、学内外で実施する「FAL 演習 I～IV」と異なり、通常の講義演習科目と同様に専任教員及びその役割も明確である。

通年授業として開講する「FAL 演習 I」「FAL 演習 II」「FAL 演習 III」「FAL 演習 IV」は、授業の一部において、学内外のフィールドを活用し、多様な活動実践により企業、地方公共団体、公益法人等の連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。各科目の実施に際しては、連携先と事前に協議を行い、活動内容及び実施計画、成果目標を明確にしたうえで、連携先と学生の協働により展開する。プロジェクトごとに 1 人配置する担当教員は、プロジェクトの進捗管理及び学生の監督のほか、評価責任者として、ルーブリック表を用いて学生の活動を評価するとともに、学生自身による活動ふりかえりシート、プロジェクトメンバーによるピア評価の取りまとめを行う。

プロジェクト担当者の配置にあたっては、各教員の担当科目数並びに従事する業務の状況を十分に勘案して適切に行うため、教員 1 人あたりの負担は問題ないことを確認している。

以下に、各科目の概要を示す。

主に1年次の学生向けに開講する「FAL 演習Ⅰ」は、FALにはじめて取り組む学生を対象とし、協働的実践の基本、連携先との関わり方、成果のまとめ方、プレゼンテーションの方法などについて、実践を通じて学ぶ。本科目は選択科目であり、200人程度の履修が見込まれる。実施するプロジェクト数（連携先）は20件程度、プロジェクトあたりの学生数は10人程度と想定される。

主に2年次の学生向けに開講する「FAL 演習Ⅱ」は、専門基礎科目等の履修により社会との関わり方、社会学の基本的な考え方を身につけた学生を対象とし、課題に対する多角的な視点、解決に向けた多様なアプローチなどについて、実践を通じて学ぶ。本科目は選択科目であり、120人程度の履修が見込まれる。実施するプロジェクト数（連携先）は12件程度、プロジェクトあたりの学生数は10人程度と想定される。

主に3年次の学生向けに開講する「FAL 演習Ⅲ」は、専門展開科目等の履修により一定以上の学術的知見を有する学生を対象とし、その知見を用いた課題の分析、実現可能な解決策の提案方法などについて、実践を通じて学ぶ。本科目は選択科目であり、80人程度の履修が見込まれる。実施するプロジェクト数（連携先）は8件程度、プロジェクトあたりの学生数は10人程度と想定される。

主に4年次の学生向けに開講する「FAL 演習Ⅳ」は、現代社会学部における学修により、一定以上の学術的知見とフィールドでの実践経験を有する学生を対象にFAL科目の集大成として開講するもので、連携先が抱える課題の発見から解決、活動のふりかえりに至るプロセスへの主体的な参画方法について、実践を通じて学ぶ。本科目は選択科目であり、30人程度の履修が見込まれる。実施するプロジェクト数（連携先）は6件程度、プロジェクトあたりの学生数は5人程度と想定される。

特にFAL科目の実施にあたっては、可動式の机・椅子を整備した新学部棟（仮称）のラーニング・コモンズや講義室を活用し、学生の対話や協働を促進する。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（11～13ページ）

新	旧
<p>2) FAL 科目を中心としたアクティブ・ラーニングによる主体的かつ実践的な学び</p> <p>1年次から4年次まで配置する専門科目「FAL科目」により、企業、地方公共団体、公益法人等と協働しながら課題解決型の授業を展開し、地域社会の現場で活躍し、牽引役となる人材を養成する。</p> <p>（削除）</p>	<p>2) FAL 科目を中心としたアクティブ・ラーニングによる主体的かつ実践的な学び</p> <p>1年次から4年次まで配置する専門科目「FAL科目」により、企業、地方公共団体、公益法人等と協働しながら課題解決型の授業を展開し、地域社会の現場で活躍し、牽引役となる人材を養成する。</p> <p><u>FAL科目では、配当年次ごとに体系的、発展的な授業を展開する。1年次では、フィールド型アクティブ・ラーニングの基本、連携先との関わり方、成果のまとめ方、プレゼンテーションの方法等について学ぶ。2年次では、課題に対する多角的な視点、解決に向けた多様なアプローチ等について学ぶ。3年次では、学術的知見を用いた課題の分析、実現可能な解決策の提案方法等、最終年次の4年次では、連携先が抱える課題の発見から解決、活動の振り返りに至</u></p>

<p>(中略)</p> <p><u>FAL 科目の実施概要及び運営体制は、以下のとおりである。</u></p> <p><u>FAL 科目の運営においては、FAL 運営委員会（仮称）を設置し、「FAL 演習Ⅰ～Ⅳ」の統括責任者及び各プロジェクトの担当教員を選出・配置し、担当教員間の連携、学生に対する指導及び連携先との協議、評価にかかる方針・基準を明確化することにより、指導体制を確保する。</u></p> <p><u>1 年次前期に開講する「FAL 入門」は、FAL の入門科目として、地域や企業など、様々なフィールドの現状と課題、またフィールドにおける活動に取り組むにあたっての心構えと具体的な手法を実践的に学ぶ。本科目は必修科目であるため、250 人の履修生が見込まれ、5 人の専任教員が分担して授業を運営する。</u></p> <p><u>1 年次後期に開講する「FAL 実践」は、FAL の実践科目として、様々な活動実践の現場で活躍する主体との交流を通じた「提案力」及び「修正力」の獲得を目指す。本科目は選択科目であり、100 人程度の履修が見込まれる。本科目は、企業、地方公共団体、公益法人等と連携して開講するもので、社会が抱える課題に関する話題提供や、学生が提案するアクションプランに対するフィードバックなどを連携先が担当し、科目を担当する 5 人の専任教員は、授業の円滑な運営を監督するとともに、グループワークのファシリテーターとして、学生の主体的な学修を支援する。</u></p> <p><u>なお、「FAL 入門」及び「FAL 実践」は、学内外で実施する「FAL 演習Ⅰ～Ⅳ」と異なり、通常の講義演習科目と同様に責任教員及びその役割も明確である。</u></p> <p><u>通年授業として開講する「FAL 演習Ⅰ」「FAL 演習Ⅱ」「FAL 演習Ⅲ」「FAL 演習Ⅳ」は、授業の一部において、学内外のフィールドを活用し、多様な活動実践により企業、地方公共団体、公益法人等の連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。各科目の実施に際しては、連携先と事前に協議を行い、活動内容及び実施計画、成果目標を明確にしたうえで、連携先と学生の協働により展開する。プロジェクトごとに 1 人配置する担当教員は、プロジェクトの進捗管理及び学生の監督のほか、評価責任者として、ルーブリック表を用いて学生の活</u></p>	<p>るプロセスへの主体的な参画方法について学ぶ。</p> <p>(新規)</p>
--	---

<p>動を評価するとともに、学生自身による活動ふりかえりシート、プロジェクトメンバーによるピア評価の取りまとめを行う。</p> <p>プロジェクト担当者の配置にあたっては、各教員の担当科目数並びに従事する業務の状況を十分に勘案して適切に行うため、教員1人当たりの負担は問題ないことを確認している。</p> <p>以下に、各科目の概要を示す。</p> <p>主に1年次の学生向けに開講する「FAL 演習Ⅰ」は、FALにはじめて取り組む学生を対象とし、協働的実践の基本、連携先との関わり方、成果のまとめ方、プレゼンテーションの方法などについて、実践を通じて学ぶ。本科目は選択科目であり、200人程度の履修が見込まれる。実施するプロジェクト数（連携先）は20件程度、プロジェクトあたりの学生数は10人程度と想定される。</p> <p>主に2年次の学生向けに開講する「FAL 演習Ⅱ」は、専門基礎科目等の履修により社会との関わり方、社会学の基本的な考え方を身につけた学生を対象とし、課題に対する多角的な視点、解決に向けた多様なアプローチなどについて、実践を通じて学ぶ。本科目は選択科目であり、120人程度の履修が見込まれる。実施するプロジェクト数（連携先）は12件程度、プロジェクトあたりの学生数は10人程度と想定される。</p> <p>主に3年次の学生向けに開講する「FAL 演習Ⅲ」は、専門展開科目等の履修により一定以上の学術的知見を有する学生を対象とし、その知見を用いた課題の分析、実現可能な解決策の提案方法などについて、実践を通じて学ぶ。本科目は選択科目であり、80人程度の履修が見込まれる。実施するプロジェクト数（連携先）は8件程度、プロジェクトあたりの学生数は10人程度と想定される。</p> <p>主に4年次の学生向けに開講する「FAL 演習Ⅳ」は、現代社会学部における学修により、一定以上の学術的知見とフィールドでの実践経験を有する学生を対象にFAL科目の集大成として開講するもので、連携先が抱える課題の発見から解決、活動のふりかえりに至るプロセスへの主体的な参画方法について、実践を通じて学ぶ。本科目は選択科目であり、30人程度の履修が見込まれる。実施するプロジェクト数（連携先）は6件程度、プロジェクトあたりの学生数は5人程度と想定される。</p> <p>(中略)</p>	
--	--

<p>特に FAL 科目の実施にあたっては、可動式の机・椅子を整備した新学部棟（仮称）のラーニング・コモンズや講義室を活用し、学生の対話や協働を促進する。</p>	
---	--

(改善事項) 現代社会学部 現代社会学科

7. 専任教員の年齢構想が高齢に偏っていることから、教育研究の継続性の観点から、若手教員の採用計画など教員組織の将来構想を明確にすること。

(対応)

専任教員 22 人のうち、完成年度（令和 8 年度）の 3 月末に本大学の定年である満 64 歳を超え、「学校法人常翔学園 特任教員規定」（以下、規定）により定年を超えての勤務が認められている教員は 8 人である。本大学（本学園）では、特に任じられた職務を行う場合は、満 70 歳を超えない期間まで、特任教員（専任教員）として就任することを可能としている。

なお完成年度の令和 8 年度末に任期満了を迎える教員数は 4 人、設置後 6 年の令和 10 年度末の任期満了教員数は 1 人の予定である。本大学（本学園）の規定に鑑み、本学部の教員組織の将来構想は以下のとおり教員配置計画を進めていく。

設置後 2 年目（令和 6 年度）後期には後任人事構想の審議を開始し、3 年目（令和 7 年度）後期には若手教員中心の採用人事（募集等）を開始する。後任人事は、3 年目（令和 7 年度）前期までの教育研究業績及び社会情勢を踏まえ、将来構想に基づき適切に人事配置する。本学部の専任教員数は、完成年度以降も設置認可申請を行った 22 人の水準を下回ることなく、維持または必要に応じ増員する。また教育研究の継続性を踏まえ、社会学の諸領域及び学生の関心が高い専門領域の補充も考慮しつつ、ベテランと若手教員をバランスよく配置する採用計画とし、教育研究の活性化を図る。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (36 ページ)

新	旧
<p>4) 完成年度後の教員組織構想 (省略) 中堅及び若手教員の育成状況を踏まえた昇任昇格をはじめ、新規採用等を想定した教員組織に関する中期的な人事計画を策定していく。その際、「任用規定」【資料 10】に定める任用の計画に基づき対応を図っていく。教員採用については公募等により広く候補者を募ることとし、本大学の教員選考基準等で定める審査基準に基づき、厳格なる審査を経て採用していく。</p> <p><u>具体的には、設置後 2 年目（令和 6 年度）後期には後任人事構想の審議を開始し、3 年目（令和 7 年度）後期には若手教員中心の採用人事（募集等）を開始する。後任人事は、3 年目（令和 7 年度）前期までの教育研究業績及び社会情勢を踏まえ、将来構想に基づき適切に人事配置する。本学部の専任教員数は、完成年度以降も設置認可申請を行った 22 人の水準を下回ることなく、維持または必要に応じ増員する。また教育研究の継続性を踏まえ、社会学の諸領域及び学生の関心が高い専門領域の補充も考</u></p>	<p>4) 完成年度後の教員組織構想 (省略) 中堅及び若手教員の育成状況を踏まえた昇任昇格をはじめ、新規採用等を想定した教員組織に関する中期的な人事計画を策定していく。その際、「任用規定」【資料 10】に定める任用の計画に基づき対応を図っていく。教員採用については公募等により広く候補者を募ることとし、本大学の教員選考基準等で定める審査基準に基づき、厳格なる審査を経て採用していく。</p> <p>(新規)</p>

慮しつつ、ベテランと若手教員をバランスよく 配置する採用計画とし、教育研究の活性化を図 る。	
--	--

以 上

審査意見への対応を記載した書類（6月）

資料目次

資料1	養成する人材像とカリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの関連図	P 2
資料2	基礎・選択科目が対象とする社会領域	P 3

■養成する人材像とカリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの相関図

養成する人材像

社会学を基礎とした幅広い見識を有し、

社会学的想像力と実践力を身につけた、

現代社会が抱える諸課題の解決に貢献できる知的専門職業人を養成する。

ディプロマ・ポリシー		カリキュラム・ポリシー					
[DP1]	[DP2]	[CP1]	[CP2]				
人文科学系、社会科学系、自然・科学技術系などの教養を身につけるとともに、現代社会学に関する基礎知識を身につけている。(教養と専門の基礎知識)	現代社会で起きている現象を多面的に理解するために必要な専門知識を身につけている。(現代社会学の専門知識・理解)	豊かな人間性を育み、グローバル化や価値観の多様化を理解するための幅広い教養を身につけるため、人文・社会・自然科学系などの教養科目を配当する。さらに、現代社会が抱える諸課題に向き合う上で必要となる基礎知識を身につけるために、「現代社会学入門」「基礎統計学」を配当する。	現代社会が抱える諸課題をマクロな社会構造の視点、ミクロな諸個人の生活の視点および2つの視点をつなぐコミュニケーション、メディア、表象等の視点での分析・考察に必要な専門知識を身につけるために、「社会構造変動史」「日常生活世界論」および展開科目を配当する。				
[DP3]	[DP4]	[CP3]	[CP4]				
現代社会の様々な事象に含まれる問題を多様な視点から発見するとともに、実現可能な解決策を提案できる。(課題発見力・解決力)	未来の社会を柔軟に構想することができる思考力や総合的判断力を有している。(思考・判断力)	現代社会が抱える諸課題を多面的・多角的に分析・考察し、自ら課題を発見し、その解決に必要な方法を提案できる能力を身につけるために、「FAL入門」「FAL実践」「初年次ゼミ」および展開科目を配当する。	現代社会が抱える諸課題を多面的・多角的に分析・考察することで、柔軟な思考力と判断力に繋げるとともに、新しい発想で未来社会を構想することができる能力を身につけるために、「基礎演習Ⅰ」「専門演習Ⅰ・Ⅱ」「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」および展開科目を配当する。				
[DP5]	[DP6]	[CP5]	[CP6]				
現代社会で起きている現象に関心を持ち、社会問題の解決に主体的に取り組むことができる。(関心・意欲)	多様な価値観を尊重し、高い倫理観を持ち、フィールドワークやゼミ活動で協働することができる。(チームワーク・倫理観)	現代社会における様々な共同体の現状と課題に関心を持ち、その解決に向けて主体的に取り組む姿勢を身につけるために、「現代社会の諸問題」「FAL入門」「FAL実践」「初年次ゼミ」を配当する。	多様性が重視される現代社会において、高い倫理観を持って他者の意見を受け入れたり、他者との作業を協働的に取り組んだりする力を身につけるために、1年次から4年次にかけて「FAL演習Ⅰ～Ⅳ」「初年次演習」「基礎演習Ⅱ」を段階的に配当する。				
[DP7]	[DP8]	[CP7]	[CP8]				
課題の発見・解決のために必要な情報を多様で適切なメディアや実態調査を通して収集し、分析する技能を身につけている。(社会調査力)	自らの考えを論理的にまとめ、多様な手段を用いて表現・発信することができる。(プレゼンテーション力)	現代社会が抱える諸課題の発見・解決のために必要な情報を、多様で適切なメディアや実態調査を通して収集し、分析するスキルを身につけるために、1年次から4年次にかけて社会調査土関連科目および「FAL演習Ⅰ～Ⅳ」を段階的に配当する。	プレゼンテーションに必要な他者との議論を通して自らの考えをまとめる能力と多様な情報を収集・整理・発信する能力を身につけるために、1年次から4年次にかけて「FAL演習Ⅰ～Ⅳ」および「初年次演習」「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「専門演習Ⅰ・Ⅱ」「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」を段階的に配当する。				
知識・理解		思考・判断		関心・意欲・態度		技能・表現	

学修成果については以下の方法等で評価する。

(学修成果の評価方法)

授業科目の評価にあたっては、シラバスで学生に明示する各科目の到達目標の達成度と評価方法、評価基準に基づき、客観的かつ厳格に行う。

(教育手法)

各授業においては、自ら能動的に学修し探究する態度を身につけるため、アクティブ・ラーニングの教育手法を多く取り入れる。様々な活動実践を学びの場とする「FAL科目」では、フィールド型アクティブ・ラーニングを実施する。

(教育の質保証)

授業評価等による教育課程の自己点検・評価を不断に行い、その改善に努めることで教育の内部質保証を行う。

基礎・展開科目が対象とする社会領域

社会領域	関連する主なキーワード	主要・関連科目別	基礎科目	展開科目(科目群、主な観点)			
				ソーシャル・イノベーション	ライフ・デザイン	メディア・コミュニケーション	
				1.マクロな社会構造・変動、2.方法的社会主義	1.個人々の生活の現場、2.方法的個人主義	1.社会構造と個人々の生活をつなぐコミュニケーション、メディア、2.表象・表現	
			科目名	科目名	科目名	科目名	
理論・概念	1.近代社会、2.社会学理論、3.行為、4.価値、5.合理性、6.構造、7.関係性、8.自己と他者など (各科目の基礎になる理論・概念)	主要科目	社会学説史	-	-	-	
		関連科目	その他すべての基礎科目	すべての展開科目	すべての展開科目	すべての展開科目	
相互行為・自我・意味	1.自己と他者、2.アイデンティティ、3.意味世界・日常生活世界、4.社会心理・臨床心理、5.人間関係・関係性、6.カテゴリー化、7.まなざし・外見など	主要科目	自我と関係の社会学 社会心理学 臨床社会学	- - -	- - -	身体とコミュニケーション ビデオ・エスノグラフィー -	
		関連科目	社会学説史 文化社会学 ジェンダー論	人間環境の社会学 エスニシティ論 -	思春期・若者論 犯罪・非行の社会学 -	差別の社会学 映画を読み解く社会学 司法・犯罪心理学	
		主要科目	家族社会学	-	-	-	
		関連科目	ジェンダー論 日本社会変動史 都市計画論 福祉社会学 -	政治文化の社会学 地域社会形成論 人間環境の社会学 階層構造変動史 エスニシティ論 教育の歴史社会学	仕事と暮らしの社会学 ジェロントロジー 都市住宅論 -	映画を読み解く社会学 -	
ジェンダー・セクシャリティ	1.フェミニズム、2.性の多様性・LGBTQ、3.性差・性別役割、4.男女共同参画、5.恋愛、6.ダイバーシティ、7.女性の健康など	主要科目	ジェンダー論	-	-	-	
		関連科目	家族社会学 文化社会学 地域社会学 産業労働社会学 子どもと教育の社会学 福祉社会学 社会運動・ボランティア論	政治文化の社会学 地域社会形成論 階層構造変動史 -	思春期・若者論 仕事と暮らしの社会学 ジェロントロジー 都市住宅論 ヘルスプロモーション論 -	映画を読み解く社会学 差別の社会学 身体とコミュニケーション ジャーナリズム論 -	
		主要科目	産業労働社会学	-	仕事と暮らしの社会学	-	
		関連科目	社会学説史 子どもと教育の社会学 日本社会変動史 スポーツ社会学 家族社会学 都市計画論	階層構造変動史 地域社会形成論 人間環境の社会学 自然と科学の社会学 -	ジェロントロジー 生涯スポーツ論 都市住宅論 ヘルスプロモーション論 -	ジャーナリズム論 -	
		主要科目	環境社会学	人間環境の社会学	-	-	-
		関連科目	メディア社会学 社会運動・ボランティア論 国際社会学	地域社会形成論 -	犯罪・非行の社会学 -	映画を読み解く社会学 ジャーナリズム論 -	
		主要科目	子どもと教育の社会学	教育の歴史社会学	-	-	-
		関連科目	産業労働社会学 日本社会変動史 国際社会学 福祉社会学 スポーツ社会学 ジェンダー論 家族社会学 社会運動・ボランティア論 臨床心理学 地域スポーツ論	自然と科学の社会学 エスニシティ論 階層構造変動史 -	ヘルスプロモーション論 生涯スポーツ論 -	地域メディア論 広報メディア論 -	
医療・福祉	1.生活の質、2.健康、3.福祉レジャー、4.障害文化・ノーマライゼーション、5.介護・ケア、6.心理療法・カウンセリング、7.薬害・人体実験・公害病、8.医療文化、9.児童福祉、10.社会保障など	主要科目	福祉社会学 地域福祉論	- -	地域観光福祉論 ヘルスプロモーション論	- -	
		関連科目	文化社会学 臨床心理学 家族社会学	階層構造変動史 自然と科学の社会学 -	仕事と暮らしの社会学 ジェロントロジー 生涯スポーツ論	ビデオ・エスノグラフィー 司法・犯罪心理学 差別の社会学	
		主要科目	-	-	犯罪・非行の社会学	差別の社会学	
		関連科目	自我と関係の社会学 社会学説史 メディア社会学 社会心理学 臨床心理学 家族社会学 ジェンダー論 社会運動・ボランティア論 子どもと教育の社会学 福祉社会学	人間環境の社会学 地域社会形成論 エスニシティ論 教育の歴史社会学 -	思春期・若者論 ジェロントロジー -	ビデオ・エスノグラフィー 映画を読み解く社会学 ジャーナリズム論 身体とコミュニケーション -	
階級・階層、社会的不平等	1.経済格差・貧困、2.階層の世代再生産、3.下層社会・下層階級、4.地域間格差、5.国家間格差、6.世代間格差、7.教育格差など	主要科目	-	階層構造変動史	-	-	
		関連科目	子どもと教育の社会学 福祉社会学 日本社会変動史 地域社会学 社会運動・ボランティア論 都市計画論 メディア社会学 産業労働社会学 家族社会学 国際社会学	教育の歴史社会学 SDGsと国際社会 -	都市住宅論	差別の社会学 ジャーナリズム論 -	
		主要科目	地域社会学	地域社会形成論	地域観光福祉論	地域メディア論	
		関連科目	都市計画論 地域福祉論 地域スポーツ論	- -	都市住宅論 -	- -	
		主要科目	福祉社会学	政治文化の社会学	ジェロントロジー	差別の社会学	
		関連科目	情報社会学 家族社会学	階層構造変動史 教育の歴史社会学	生涯スポーツ論 -	ジャーナリズム論 -	
		主要科目	地域社会学	地域社会形成論	地域観光福祉論	地域メディア論	
		関連科目	都市計画論 地域福祉論 地域スポーツ論	- -	都市住宅論 -	- -	
		主要科目	福祉社会学	政治文化の社会学	ジェロントロジー	差別の社会学	
		関連科目	情報社会学 家族社会学	階層構造変動史 教育の歴史社会学	生涯スポーツ論 -	ジャーナリズム論 -	

グローバリゼーション、エスニシティ	1.グローバルな経済格差、2.国際人口移動・移民・外国人労働者、3.国際開発・ODA、4.人種・民族対立、5.情報のグローバル化・国際報道、6.オリンピック・パラリンピック、7.在日外国人、8.ダイバーシティ・多文化共生など	主要科目	国際社会学	エスニシティ論	-	-
			-	SDGsと国際社会	-	-
		関連科目	都市計画論	地域社会形成論	仕事と暮らしの社会学	差別の社会学
			日本社会変動史	人間環境の社会学	-	映画を読み解く社会学
			社会学説史	教育の歴史社会学	-	ビデオ・エスノグラフィー
			環境社会学	-	-	ジャーナリズム論
			メディア社会学	-	-	-
			スポーツ社会学	-	-	-
社会運動・ボランティア論	-	-	-			
文化・表象	1.文芸・演劇・映画・音楽・ファッション、2.スポーツ、3.レジャー・観光、4.余暇・遊び、5.シンボル・記号、6.文化施設、7.政治文化、8.言語・識字・リテラシー、9.多文化主義・異文化理解、10.「都市伝説」・流行・ゆるキャラなど	主要科目	文化社会学	政治文化の社会学	生涯スポーツ論	映画を読み解く社会学
			スポーツ社会学	-	地域観光福祉論	-
			地域スポーツ論	-	-	-
		関連科目	自我と関係の社会学	教育の歴史社会学	仕事と暮らしの社会学	地域メディア論
			メディア社会学	エスニシティ論	-	広報メディア論
			社会心理学	-	-	身体とコミュニケーション
			都市計画論	-	-	ジャーナリズム論
			情報社会学	-	-	ビデオ・エスノグラフィー
			ジェンダー論	-	-	-
			国際社会学	-	-	-
産業労働社会学	-	-	-			
メディア・情報、コミュニケーション	1.マスメッセージ、2.インターネット・SNS、3.情報社会・監視社会、4.スポーツメディア、5.報道、6.広報・コマーシャル、7.地域メディア、8.ファクト、9.対面コミュニケーションなど	主要科目	メディア社会学	-	-	身体とコミュニケーション
			情報社会学	-	-	ビデオ・エスノグラフィー
			-	-	-	地域メディア論
			-	-	-	広報メディア論
			-	-	-	映画を読み解く社会学
			-	-	-	ジャーナリズム論
			-	-	-	-
		関連科目	文化社会学	政治文化の社会学	思春期・若者論	-
			自我と関係の社会学	人間環境の社会学	犯罪・非行の社会学	-
			臨床心理学	-	仕事と暮らしの社会学	-
スポーツ社会学	-		-	-		
社会心理学	-		-	-		
地域社会学	-		-	-		
社会運動、NPO・NGOなど社会改革	1.ボランティア、2.まちづくり・地域おこし、3.人種・民族運動、4.労働運動、5.公害反対・環境保護運動、6.まちづくり、7.フェアトレード、8.消費者運動、9.学生運動、10.市民・住民参加、11.地域スポーツクラブ、12.被災者・被害者支援、13.メインストーリーミングなど	主要科目	社会運動・ボランティア論	自然と科学の社会学	-	-
		関連科目	国際社会学	地域社会形成論	仕事と暮らしの社会学	司法・犯罪心理学
			地域社会学	政治文化の社会学	生涯スポーツ論	地域メディア論
			日本社会変動史	エスニシティ論	都市住宅論	差別の社会学
			環境社会学	SDGsと国際社会	地域観光福祉論	ジャーナリズム論
			産業労働社会学	-	-	-
			都市計画論	-	-	-
			福祉社会学	-	-	-
			地域スポーツ論	-	-	-
			地域福祉論	-	-	-
			情報社会学	-	-	-
				-	-	-
				-	-	-
	-	-	-			
国家・政治、権力、政策提言	1.国民国家・ナショナリズム、2.帝国・植民地、戦争、3.権力と支配、4.法律・政策・行政・司法、5.地方自治、6.民主主義、7.世論、8.公共性、9.スポーツ行政・公衆衛生、10.外交・国際機関、11.プロパガンダ、12.日常の政治権力など	主要科目	日本社会変動史	政治文化の社会学	-	-
		関連科目	社会学説史	地域社会形成論	都市住宅論	広報メディア論
			自我と関係の社会学	階層構造変動史	ヘルスプロモーション論	ジャーナリズム論
			メディア社会学	自然と科学の社会学	生涯スポーツ論	司法・犯罪心理学
			社会運動・ボランティア論	エスニシティ論	犯罪・非行の社会学	映画を読み解く社会学
			都市計画論	教育の歴史社会学	-	ビデオ・エスノグラフィー
			地域社会学	SDGsと国際社会	-	-
			情報社会学	-	-	-
			スポーツ社会学	-	-	-
			ジェンダー論	-	-	-
			家族社会学	-	-	-
			国際社会学	-	-	-
			地域スポーツ論	-	-	-
			福祉社会学	-	-	-
			環境社会学	-	-	-
	-	-	-			
世代・生殖	1.ライフコース、ライフサイクル、ライフステージ、2.世代・年齢、3.子ども、4.若者、5.高齢者、6.少子高齢化、7.非行、8.世代格差、9.多世代、10.世代とスポーツ、11.生殖・中絶・個と類など	主要科目	子どもと教育の社会学	-	思春期・若者論	-
			-	-	ジェロントロジー	-
			-	-	生涯スポーツ論	-
		関連科目	家族社会学	地域社会形成論	仕事と暮らしの社会学	司法・犯罪心理学
			ジェンダー論	政治文化の社会学	都市住宅論	身体とコミュニケーション
			日本社会変動史	人間環境の社会学	地域観光福祉論	-
			福祉社会学	階層構造変動史	ヘルスプロモーション論	-
			地域福祉論	-	犯罪・非行の社会学	-
			地域社会学	-	-	-
			スポーツ社会学	-	-	-
			産業労働社会学	-	-	-
			メディア社会学	-	-	-
				-	-	-
	-	-	-			

社会領域：日本学術会議社会学委員会「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 社会学分野」に準拠。ただし、「医療・福祉・教育」を「医療・福祉」と「教育」に区分。「世代・生殖」を追加。各授業科目の配置は、「シラバス」におけるキーワードに基づく。